

北杜市子ども読書活動推進計画策定委員会会議録

1 会 議 名：令和6年度第4回北杜市子ども読書活動推進計画策定委員会

2 開催日時：令和7年2月13日（木）午後2時～午後3時10分

3 開催場所：北杜市金田一春彦記念図書館 SV ホール

4 出席者（敬称略）

（1）委員

河手由美香、小澤志保子、佐野隆、谷戸直子、白砂卓巳、鈴木伸幸、齋藤園子、菊見理恵、
小宮山典子、前田久美、津金胤寛 （欠席委員：渡部一司、鷹左右紀）

（2）事務局

中央図書館長/中澤徹也、中央図書館総務担当/河野明美、大塚美智子

5 会議録署名委員（敬称略）

鈴木伸幸委員 小宮山典子委員

6 公開・非公開の別：公開

7 傍聴人の数 0名

8 会議内容

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

（1）第四次北杜市子ども読書活動推進計画（案）のパブリックコメントの結果について

（2）第四次北杜市子ども読書活動推進計画（案）の最終確認について

（3）その他

4. 閉会

議事（1）第四次北杜市子ども読書活動推進計画（案）のパブリックコメントの結果について

事務局：資料1「第四次北杜市子ども読書活動推進計画（案）に関するパブリックコメント募集の結果」より説明。

●質疑応答等

議 長：事務局の説明について、意見や質問等があればお願いしたい。まず、第2章の数値目標以外の取り組み状況について質問、意見はあるか。

委員：特になし。

議長：これは原案を推し進めて欲しいという賛同の意見と理解できるため、このままで進めさせていただけだと思う。続いて第三次推進計画における成果と課題について、質問、意見等があるか。

委員：特になし。

議長：これも基本的には原案を推進してほしいという願いが込められた意見である。ICT の環境、デジタル化の関係については日進月歩の状況であり、あわせて予算等の関係もあるため、5 年を見据えて計画の中に明記するのは難しいと思うため、市の対応通りでよろしいのではないかと思う。ただ 1 点、タブレットを利用して市立図書館の予約ができる環境作りにおいては、おそらく市の公共図書館では大きな問題はなかろうと思うが、これを実現していく上で、学校側で課題または問題点だと思うこと、予想されることなどがあれば、今後の活動を具体的に推進していくにあたり、参考のために一言ずつ意見をいただきたい。

委員：小学校の場合は低学年と高学年で予約をすることに対する手法も随分違う。一概には言えないが、高学年に関しては特に問題ないと思っている。低学年に関しては、タブレット自体あまり馴染みがないため、今後出てくるソフトがどんな作りになってくるかによると思う。

議長：タブレット市場の関係で、学校の指導上、低学年においては、導入は段階を踏まなければならないという課題があるとのこと。事務局はこのことを今後を引き継ぎ、学校と連携をとっていただければと思う。

委員：中学校の方では、インターネットを自宅でも利用し、学校でも授業などで利用する機会が多い。予約については、自分で予約をすることが重要になり、本を検索して予約をするということはいいと思う。ただ、予約本を受け取るために図書館に行くというときに、自分で行けない場合もあると思うため、そこが唯一図書館に行くときに大変だと思うところである。そう考えると、電子書籍の導入が進むと、自宅にいながら読書を楽しめるようになるのでいいのではないか。

議長：タブレットの使用上や予約上の問題は、中学校では大きな問題にはならないだろう。けれども借りた後実際にどこに取りに行くのか、そこに大きな壁が出てくる可能性があるということなので、その辺の貸し出しの運営については、学校と連携をとっていくことが必要かと思われるため、事務局の方で引き継ぎをお願いしたい。

委員：高校生は、タブレットはもちろん、ほとんどの生徒がスマートフォンを持っているので、基本的にアクセスすることは可能である。また、本校の場合は最寄りにながさか図書館があるので、例えば北杜市立図書館の本を予約する場合には貸し出しカードを作り、メールを

登録すれば誰でも予約ができるということなので、このようなことができることを学校側からも推進していけたらいいのではと考えている。また、学校ではカーリルという検索機能を使っていて、フォームズからも予約ができるように、甲陵中学生・高校生は環境が整っているので、公共図書館の方にこのような形があることをお知らせしたい。

議長：生徒一人一人への周知も大事なことであるという意見である。また、最寄りの図書館の活用、電子書籍の普及は、推進していく上で大きな鍵を握っているため、予算化と今後考えていただかなければならないことかと思う。事務局の方で何か聞いておきたいことはあるか。

事務局：特になし。

議長：パブリックコメントについて、市からの回答、対応と考え方について、このような形で回答するという事で委員の皆様にはご了解いただいた。

議事（２）第四次北杜市子ども読書活動推進計画（案）の最終確認について

議長：続いて２号議案。第四次北杜市子ども読書活動推進計画案の最終確認については、これで最終的に今後５年間の計画となるため、気づいた点については、文言や数字の修正も含めて、意見をいただければありがたい。既にパブリックコメントで提示したものであるため、内容についての大きな改変は非常に難しいということも併せて理解をいただいた上で、最終版として気になる点があれば一言ずついただければと思っている。

委員：パブリックコメントの関連で、１９ページに小中高生のタブレット利用について、市立図書館への予約できる環境づくりが必要ということがあった。将来、具体的に運用していくとき、予約するだけではなく、予約した本を学校で受け取れる仕組みを作ることが大切で効果がでると思うため、考慮していただきたい。もう１点は、巻末のアンケート結果が、以前に比べてだいぶ見やすくなったが、Ｑ５の結果とそれ以降も同様だが、令和５年度のアンケート結果の横棒グラフ、横軸グラフの色と、平成２４年、２９年のデータの同じ回答については色が違う。色に違いがあると対比しにくいという気がするため、色を合わせるとよいと思う。

議長：２点あった。デジタルのシステム運用について、借りられる環境を整えるだけということだけでなく、問題は本を借りて終わりではなくて、そこで実際に本が読めることが大事なので、学校図書館で実際に本が借りられることについては学校司書からも意見があったが、参考にして事務局で引き継いでほしい。また、アンケートデータの回答の色を合わせることにについて、事務局はいかがか。

事務局：事務局としては、近い色に合わせたところもあるが、エクセルのバージョンの違いで同じ色が出

せなくなったところがある。

委 員：承知した。

事務局：委員の方々も気になったところがあると思うが、事務局の方で、前回１１月１８日の会議の内容も集約して出したが、若干変わっているところもあるので、変更したところを説明させていただきたい。

※資料「ほくと子ども読書の杜プラン＝第四次北杜市子ども読書活動推進計画＝（案）」に関する修正箇所等を説明。

議 長：事務局の訂正箇所を含めて、気づいた点があれば委員全員の意見を伺いたい。

委 員：特に意見や加除修正なし。

委 員：先ほど意見があったように、北杜市の公共図書館から借りる本を、学校図書館で借りたり返したりできるようになれば良い。

委 員：パブリックコメントについての意見はないが、今後デジタル社会に対応していくことは必要だと思う。タブレットを使って、予約や新刊図書の紹介など、端末を使って情報を受け取れるようになれば、子どもたちにとって読みたい本も見つかりやすいのではないかな。

議 長：事務局としての考えはあるか。

事務局：具体的には無いが、定例教育委員会や市議会などでもこのような意見が出る。図書館のテーマ展示とホームページがリンクするなど、委員の方々からの貴重な意見を参考にし、更に工夫を凝らしていきたい。

委 員：今回改めて資料を拝見し、第三次計画の時からすばらしい取り組みをされていたと思う。特に感じたのは、ブックスタートの読書率が９８パーセントで、ほぼ１００パーセントに近い読書率ということ。また、小学校低学年の、読書に関心のある時期から取り組むことが重要だと感じた。資料にあるように、市立図書館主催のおはなし会など、読書の機会を作ることも引き続き必要だと思う。小学校低学年ころから読書習慣が定着すると、読書をするのがあたりまえになってくるのではなかろうか。
資料のアンケート集計で、問い６の数字について確認してほしい。

委 員：子ども読書活動推進計画案については、修正箇所等なし。資料の中で、父親の参加が増えてきているようなので、市立図書館のおはなし会の時間帯の見直しも必要なのではないかと感じた。また、市立図書館主催のこども図書館まつりの開催については、大勢の集客があったとのこと。

このような、家族ぐるみで参加できるイベントが増えていくと家庭の中に読書が定着し、有効的である。

委員：細かい点だが、3点修正をお願いしたい。

議長：修正する点については事務局をお願いする。家読に関する指摘は、前回の会議でも上がっていたが、データ変更についての説明をお願いしたい。

事務局：数値目標の4段目、「家読（週3回以上家族と一緒に本を読む児童・生徒）の割合については、前回の会議の中でも議論したところであり、ここは新しく設定した項目であると説明している。ここで議論したのは、家読のことか、家で本を読むことかだが、事務局としては家読という観点であるため、前回の資料では入っていなかったがこのような表記にした。令和6年度の実績値は、市で行った調査の結果である。令和11年度の目標値は、前回までは高い数字であったが、目標値として高すぎるのではないかという意見を受け、実績を見ながらこのように設定した。

議長：家読については、何をもって家読とするのかというところから、質や量などについて委員の方々から様々な意見をいただいた。データを継続して取ることも重要であるため、最終的に事務局にこのように設定してもらった。ただ、小学校での家読のあり方、中学校、高等学校での家読のあり方についてはいろいろな議論があろうかと思うが、今回の計画の中では、そこまで踏み込んで記載するのは難しいと考えている。北杜市として今後家読をどのように推進していくかは、この計画を実施していく中で、事務局を中心に関係各所機関と議論を交わしながら、こんな家読を目指していこうと周知していくことを、この計画の中に含め、引き継いでほしいと思う。

委員：特に意見や加除修正なし。

団体貸出については保育園でも利用しているが、子どもたちの好きな絵本や図鑑を、毎月楽しみに待っているので、引き続き利用させていただけるようお願いしたい。

議長：この読書活動推進計画を策定するにあたり、なかなか図書館に行かない理由の中に、子どもが迷惑をかけるのではないかということを保護者が心配しているが、保育園においては、子どもたちが絵本を破くなどの心配はあるのか。またそれに対する対策はあるか。

委員：子どもたちが絵本を破くとか雑に扱うということは保育園の中ではない。読んだ後、床に置いたままにしてしまう場合は、「大事なものだからしまっておこうね。」と声かけをする。

議長：子どもたちがのびのびと本を楽しめる環境が作れるように連携していければと思う。

委員：資料についての意見や加除修正は特になし。

今回の計画を策定するにあたり、委員全員が非常に良い意見を発言していたと思う。計画は作っただけでは意味がないので、この計画の理念をしっかり意識することが大切である。また、進捗の管理を今後もきちんと行い、進めてほしい。

議長：この計画の策定については、理念、目指すべきものは示されているが、大事なのは運用し、それをどのように目標に近づけていくかという具体的な動きだと思う。先ほどの家読や、前回話題に出た朝読についても実際に動かしていくことが大事である。それを動かしていくには、これからも必要な協議を関係各所で行っていくことが必要だと思う。

委員：この計画は、委員の方々のそれぞれの立場から出た意見をまとめたものであるため、今後活かされていくことを期待する。資料の中の写真についても、保育園児、小中学生、保護者などが生き生きとしている様子に着目してほしい。計画の内容については、加除修正なし。気になる点は、家読のこと。文章の中に取り入れたとき、かぎ括弧や読み方を付けずにそのまま記載することによいか。

議長：この計画を具体的に運用していくことに非常に意味がある。また、家読に焦点をあて、事務局が中心となって、学校や家庭、様々な関係機関と連携をとって進めてほしいと思う。委員の方々にはそれぞれの立場から活発な意見をいただき、豊かで充実した会議になったことに感謝する。新聞記事によると、学校に読書活動を任せることが難しい時代になりつつあるため、子どもたちが地域に帰って本に親しむことの重要性を改めて感じた。このことから、一人でも多くの大人にこの読書活動推進計画を周知していくことに非常に意味があり、大人の読書活動も推進していくことの重要性を痛感している。また、企業や民間、書店の力を借りながら、一人でも多くの方々に本を手渡せる環境を作れるように、市の様々な機関と連携し、この計画が5年間運用されることを願っている。

議事（3）その他について

事務局：・今後の予定について

ダイジェスト版は前回を参考にしながら作成した。何か気づいた点等があれば、事務局に知らせてほしい。意見の集約後、委員長、副委員長に確認を取り策定とする。策定後は冊子とダイジェスト版の配布、ホームページへの掲載等、広く周知する。

・委員の任期について

任期については、読書活動推進計画策定委員会設置要綱第4条において推進計画を策定するまでの間ということになっている。3月に策定となるため、会議としては今回が最後である。委員の方々には1年間ご協力いただき感謝申し上げます。

閉 会